一般財団法人日本不動産研究所46

地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

徳島県鳴門市＝鳴門の渦潮

世界遺産登録へ働きかけ

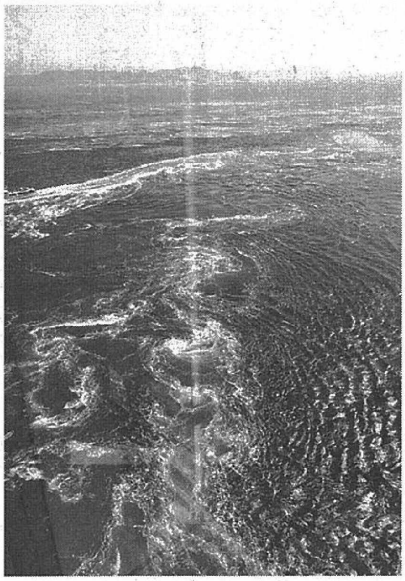
低迷する観光需要の打開へ

徳島県鳴門市。徳島県の北東端に位置し、本州と結ぶ四国側の玄関口であり、四国八十八箇所霊場の1番札所である霊山寺や、淡路島との間の鳴門海峡が有名な市である。

現地案内によると、鳴門海峡は、孫崎（鳴門市側）と門崎（とさき・淡路島側）に挟まれた約1340㍍の狭い海峡で、発生する渦潮の大きさは直径最大約20㍍にも及び、大潮の時の最大時速は約20キロにも達する。

世界の三大潮流

激しい潮流から発生する轟音から鳴門（鳴る瀬戸）の名が生まれたと言われている。また、世界においてもイタリアのメッシーナ海峡や、カナダのセイモア海峡と並ぶ世界3大潮流の1つに数えられており、日本国内で最も早い潮流である。



直径が最大約20㍍にもなる淡路島との間の鳴門の渦潮

渦は、鳴門海峡のすり鉢状のくぼみ（鳴門海峡の南側・太平洋側）には水深約140㍍、北側（瀬戸内海側）には約200㍍の海釜（かいふ）と呼ばれる深いくぼみに、月や太陽の引力及び地球の自転による潮の満ち引きにより、瀬戸内海側と紀伊水道側の海水面に水位差（最大約1・5㍍）が生じ、海水面の高い満潮側から海水面の低い干潮側へ海水が流れ込むことで、中央部の早い流れの海水と、その周辺の遅い流れの海水の速度差で渦が発生する自然現象である。

春の観測が適時

鳴門海峡では、1日に満ち潮と引き潮が交互に2回ずつ約6時間周期で渦が発生しており、鳴門海峡北側が満潮になる頃には、鳴門海峡南側は干潮となっているため、その水位差により潮の流れが北側から南側に流れる南流が発生する。また、逆に6時間後には、鳴門海峡北側が干潮になる頃には、鳴門海峡南側は満潮となっているため、その水位差により潮の流れが南側から北側に流れる北流が発生する。

この現象が1日に4回繰り返し起こっている。なお、毎月、新月と満月の時に大潮を迎えるが、特に3月下旬から4月上旬が1年のうち渦潮観測に最も適した時季と言われている。

「宿泊旅行統計調査（平成30年・年間値・速報値）（国土交通省）」によると、徳島県内の延べ宿泊者数は全国最下位の約221万人にとどまる。このうちインバウンド（外国人客）が約11万人で、インバウンドが占める宿泊者の割合は約5・0％と、同全国平均17・4％を下回る結果であった。インバウンドや国内観光客が、他県に比べて多いとは言えない徳島県ではあるが、その打開策のうちの一つとして、兵庫県と共同で渦潮のメカニズムを科学的に調査し、「鳴門の渦潮」を世界遺産登録に向けた取り組みが行われている。

「行ってよかった美術館＆博物館ランキング2011」で第1位に選ばれた大塚国際美術館

相乗効果に期待

また、渦潮観測ができる鳴門公園内には、西洋名画1000点余りを陶板で原寸大に再現・展示した大塚国際美術館がある。トリップアドバイザーの「行ってよかった美術館＆博物館ランキング2011」で第1位を獲得したこともあるこの施設は、昨年末の紅白歌合戦で地元歌手が中継を行ったことで話題にもなっている。その中で現在ある貴重な施設と相乗効果が生まれるような情報発信等の工夫を行うことで、国内外への認知度や観光需要が高まることを期待したい。（徳島支所、不動産鑑定士・石森慎吾）